

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月13日更新

事務事業名		親子ふれあい講座実施事業						☐ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり					所属部	教育委員会	課長名	上原 哲也	
	施策	20	生涯学習の推進					所属課	生涯学習課	担当者名	福田 有里子	
	基本事業	68	学習やスポーツへの参加機会の提供					所属班	図書館班	(内線)	1540	
予算科目		会計一般	款10	項5	目8	事業連番10809	法令根拠	成果優先度評価結果：⑥ コスト削減優先度評価結果：⑨				
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)				

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】	司書が講師を務め、テーマに沿った本を中心に親子で製作活動をする。親子で読書活動の楽しさを味わい親しみ、感動を共有することで読書推進を図ることを目的に平成8年度に開始された。参加人数は安定している。図書館利用数及び貸出し数が増加している。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	製作内容の決定、参加者募集チラシ作成及び配布、準備物購入、参考資料作成配布、当日の会場設営及び受付
【主な予算費目】	需用費（消耗品費）
【意見や要望】	参加体験する講座は年数回開催してほしい。 手作りのものを子どもと一緒にできてよかった。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
司書が講師となり、本『エルマーのぼうけん』にでてくる”竜”のマスコットを、フェルト、毛糸、刺繍糸等を用いて親子で製作活動を実施した。		マスコットを親子で作製し、実際に手で触れることにより、読書活動へ導くよい機械になった。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ ア 開催回数		回	
⇒ イ 参加者募集人数		人	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
合志市の親子等（子どもは小学生以下）		(単位)	
⇒ ア 参加者人数		人	
⇒ イ			
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	
親子で本に関わる製作活動をし、感動を共有する中で読書へと導く。		(単位)	
⇒ ア 参加者募集人数に対する参加者の割合		%	
⇒ イ			
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠			
・参加者募集人数に対する参加者の割合により、講座への関心度と参加機会への公平性が判断できる。 ・親子を対象にした講座のため、安全面でも参加者40名以内が望ましい。			

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア 回		1	1	1	1	1	1	1	
	イ 人		40	40	40	40	40	40	40	
② 対象指標	ア 人		32	27	40	40	40	40	40	
	イ									
③ 成果指標	ア %		80	68	100	100	100	100	100	
	イ									
投 入 費 用 量	事業費	国庫支出金	千円		3	3	5	4	4	(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	6	6	7	5	6	10	
	人件費	(A) 事業費計	千円	6	9	10	10	10	14	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	
		正規職員従事人数	人	2	3	2	2	2	2	
トータルコスト(A)+(B)	延べ業務時間	時間	16	50	16	24	16	16	16	0
		(B)人件費計	千円	64	199	63	98	65	65	
			千円	70	208	73	108	75	79	

事務事業名	親子ふれあい講座実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度的事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した 当日は、1組の欠席が生じたが、19組の参加があった。	☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☐ 目標達成見込みあり⇒【理由】 親子で製作体験活動できる講座は、毎年事業対象者に好評である。	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 活動内容を検討する余地がある。針を用いた製作は幼児の参加が少ない。幼児も小学生も参加しやすい活動内容にしていきたい。	☐ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 一年の事業の中において、話題性ある大きな目玉となる事業が核としてあり、その他参加しやすい事業があることが市民へのサービスに繋がる。他に類似事業がない。	☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 事業費の削減については、毎回工夫を凝らし手作りのもので対応している状況にありこれ以上の削減は考えられない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 現在、講師は非常勤職の図書館司書が務めている。これ以上の削減は出来ない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 図書館法により無料の原則に則って運営している。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 材料等経費がかかっており、参加費無料で開催できるのは公共図書館において他にない。製作体験活動ができる講座は多数あるが、製作する喜びを読書する楽しみへと導く講座は他に類を見ない。	☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

・参加者に、大好きな絵本の主人公を親子で一緒に製作し、実際に手に触れる体験で心満たされる時間を体験いただいた。今回の体験を、読書の楽しみにつなげることができた点で十分な成果があった。 ・針を用いた製作であったので、幼児の参加が少なかった。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																								
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善（有効性改善） ☒ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持		○																									
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												